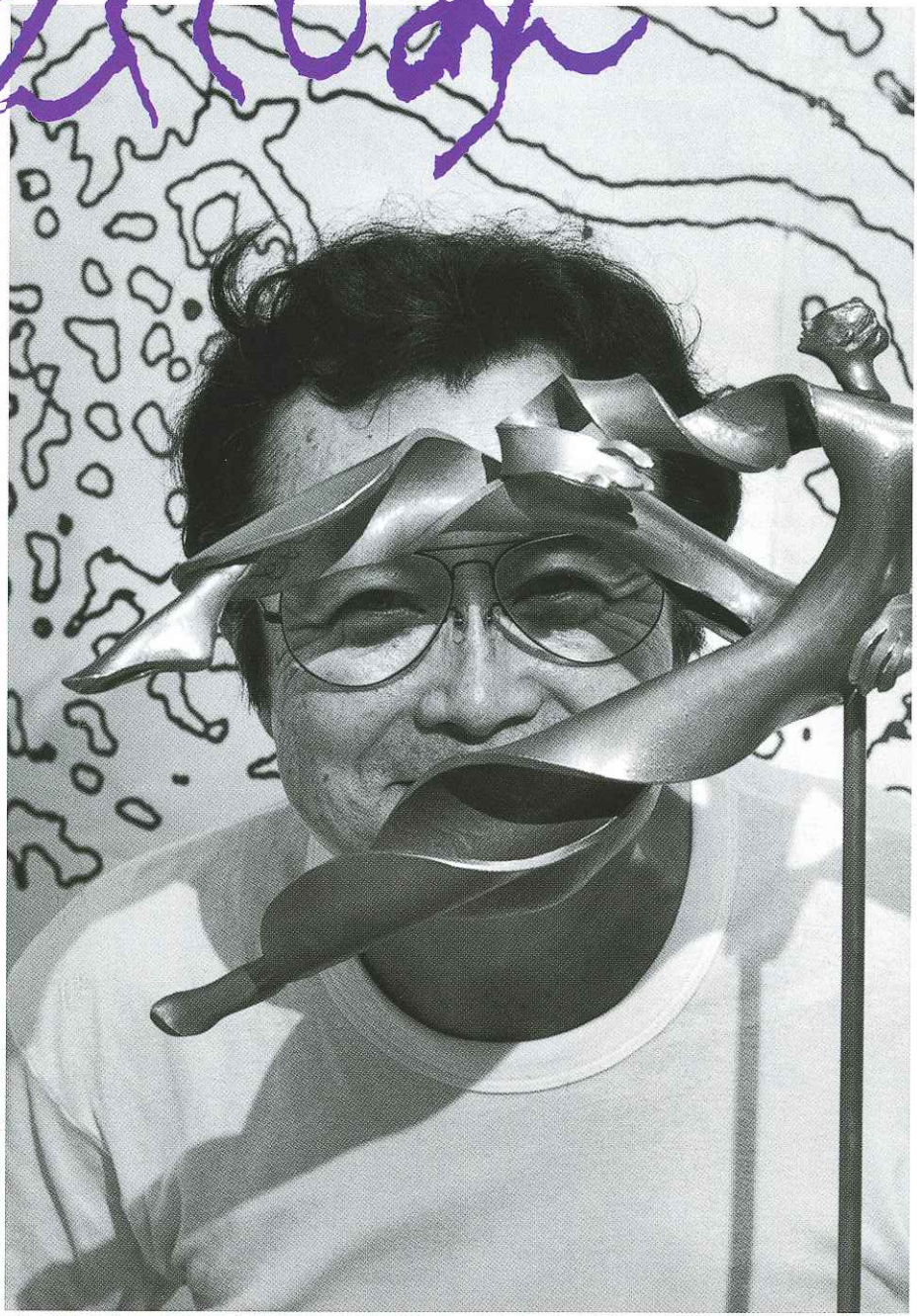
えくてぃぶん

5
立川と語ろう　立川に生きよう
May 2007
écoutez bien Vol.25 No.270



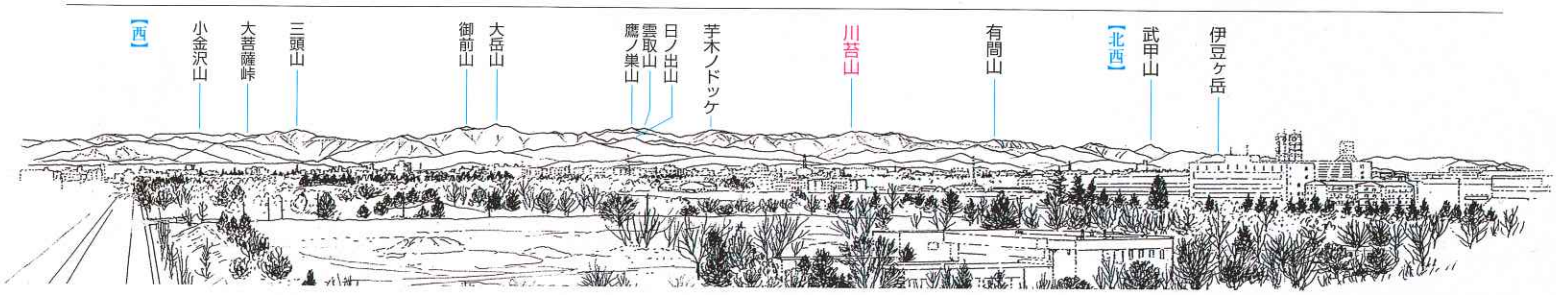
表紙の人／友安　昭　　写真／細江英公

続・立川から見える山 ⑩

川苔山

1363m

案内人：守屋龍男　写真：中村 伸
山岳展望図：藤本一美

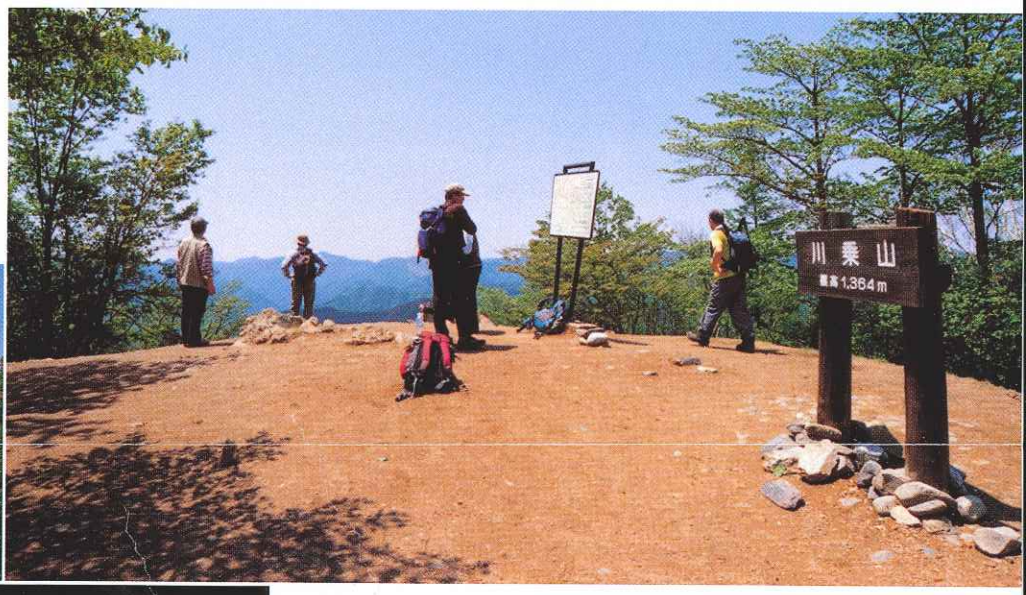


多摩モノレール 立川－高松間より

変化に富む人気の山

[川苔山へのコース]

〈 大丹波川コース 〉
JR 川井駅＝バス＝清東橋→ 40 分→林道終点→ 10 分→大丹波川→ 2 時間→獅子口小屋跡→ 30 分→横ケ谷平→ 30 分→曲ケ谷北峰→ 20 分→川苔山
〈 百尋ノ滝コース 〉
JR 奥多摩駅＝バス＝川乗橋→ 2 時間 30 分→百尋ノ滝→ 2 時間→川苔山



地形が複雑でなかなかに登りがいのある山。登山コースも 4 つほどあり変化に富んだ山登りが楽しめるのでいつも大勢の登山者で賑わう。山名は山麓の谷で川海苔が採れたところから川海苔山と付けられた。しかし、いつの間にか表記が変わり、川苔山となった。国土地理院の地形図でも川苔山と表記し「かわのりやま」とふりがなが付けてある。これには少し無理があると川乗山と表記している登山書もある。

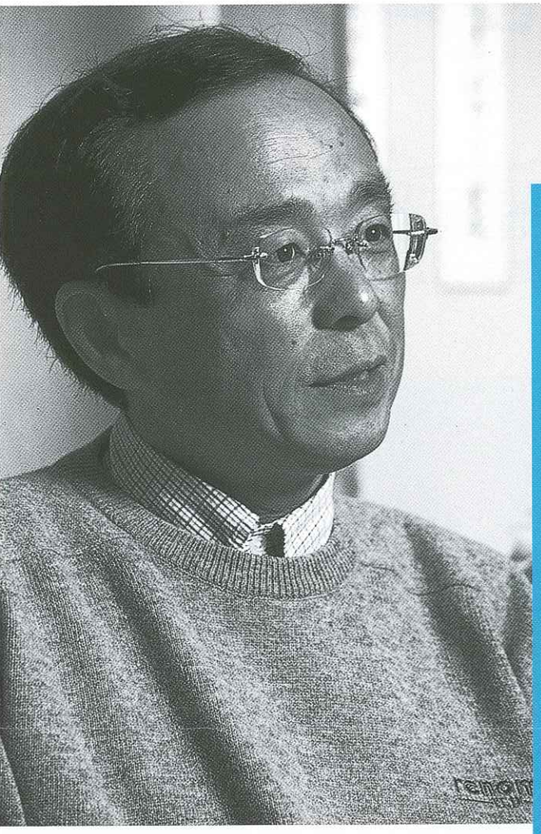
新緑のまぶしい 5 月下旬にいつものメンバーで登った。大丹波林道を車で入り、終点近くの広場で駐車。そこから急坂を下って川沿いの道に出る。ヒメレンゲ、ウツギ、クワガタソウなどがいたるところに咲いており、いつもは暗い川面も華やいで明るい。

川を何度か渡り返し、滑りやすい桟道を幾つか通過、耕作されず荒れ放題になっているわさび田を過ぎると、ようやく獅子口小屋跡に着く。近くの岩に獅子の口のような穴があいている。清冽な水がほとばしっている。早速に飲む。実に旨い。

ここからは丸太を組んだ階段道が延々と続く。全身汗まみれになって、やっと横ケ谷平の尾根に出る。爽やかな風が吹き渡っており、生き返った気分になる。曲ケ谷北峰をいつの間にか過ぎ、最後の急斜面を一登りして川苔山頂に着いた。

まぶしいほどに晴れ上がった青空の下に芋木のドッケ、天祖山、鷹ノ巣山などの日原川源流域を囲む山々が手が届くほど近くに見える。すばらしい眺望だ。バーナーで沸かしたコーヒーを飲みながら至極の時を過ごした。

下山はヤシオツツジやミツバツツジを愛でながらゆったりと下った。



於：柴崎町 ご自宅で　　写真：五来孝平

第23回 朝日俳壇賞を受けた

日置 正樹さん

一句は、発見の喜びなのです

雪晴の絶えずこぼれてゐる景色　正樹

■日置 正樹（ひおき・まさき）／1949年立川生まれ。会社勤めをしながら俳句を始めホトトギス主宰・稲畑汀子に師事、「むさし野ホトトギス会」「野分会」を中心に活動。朝日俳壇には投句を始めた2002年から入選、年間秀句に入るなどし、今回2006年の最優秀句に贈られる朝日俳壇賞（稲畑汀子選）を受けた。句会の選者、初心者教室の講師として俳句の指導、普及にもつとめる。

■芳賀敏博（はが・としひろ）／えくてびあん編集長

芳賀　この度は「朝日俳壇」の年度賞、朝日俳壇賞受賞おめでとうございます。選ばれた＜雪晴の絶えずこぼれてゐる景色＞の句、雪がやんだ後の晴れ間の輝きや、積もった雪が一斉にとけて滴を落す音が聴こえてくるようです。北国とかの雪ではなく、まさに立川のこのあたりの雪ですものね。

日置　そういうふうに読んでいただけたら嬉しいです。雪の降った翌日、すぐ近くの諏訪神社でつくった句なんです。見たそのまま、ですね。

芳賀　朝日俳壇には毎週約8000通の投句があるとうかがいましたけど、各選者が巻頭に選んだ句からさらに年間秀句が選ばれ、そのまた巻頭ですからすごい。投句はいつ頃から？

日置　2002年からです。1月から始めて2月に初めて稲畑汀子選で入句。この年に巻頭、年間秀句にも選ばれて、いつかは……と思っていました。同じ柴崎町在住で、いつも教えていただいている小室藍香さんがかつて受けられた賞ですし、嬉しいですね。

芳賀　俳句を始められたのは？

日置　12年ほど前に父を亡くして、看取った時期の心情を何かの形で綴りたいという想いがありました。最初は短歌をつくってみたのですが、語り尽くせないものを余韻というか、言葉の余白に訴えていく俳句に惹かれるようになったんです。それで地元の「むさし野ホトトギス会」に入って、それ以来です。

芳賀　句歴12年でホトトギス同人、そして今回の朝日俳壇賞……やはり才能ですか。

日置　いえいえ、そんな。私の場合、自分が実際にその場に身を置かないと句ができないですし、選に入るかなと力んで作った句はダメですね。新聞投句だけでなく句会でも同じです。肩に力を入れず、目に触れたもの耳に入ったものから心が動いたそのままを素直に一句にするだけです。予め季題が兼題としてだされている句会だと1月かけてその季題を深めて取り組みますが、吟行などでは自分で季題を見つけることになります。同じものを見ていても何を季題とするか、どう切り取るかは個性が出ますし、その人の発見です。発見して心が動く。それが句になる。生まれる一句というのは発見の喜びなんです。発見するにはよく観察しないといけない。結局、基本は客観写生だと思います。高濱虚子の教えを伝承するホトトギスで活動していますから当然といえば当然ですが、私にはそれがいちばん合っているんでしょうね。

芳賀　ふだんはお勤めをしていて、いつ俳句をつくられるんです？

日置　平日は仕事ですから土曜、日曜です。句帖を持って諏訪神社から普済寺、その後はいろいろコースを変えて2時間くらい歩くことが多いですね。その間に30句くらい句帖に書き留めておきます。「むさし野ホトトギス会」の例会と吟行を含めて月4回は句会に出て。仕事以外は俳句ばかりという感じですね。かといって家庭を顧みないと大変なことになりますから（笑）時間を工夫して……。

芳賀　僕ら編集者も言葉を磨くために嗜むべきだと言われて、仲間うちの句会でヘボ句をつくることもあるんですが、たった五七五の奥の深いこと。季題があり近世近代の名句の蓄積があり、もっといえば和歌以来の美意識を換骨奪胎して継承している。こういう形の文芸を連綿と保ち続けてきた日本の詩空間というのは世界に類がないと思います。

日置　俳句は座の文芸と言われますが、季題がみんなの共通認識として共有されていて、その上で句が成り立つわけです。そして句の読者が同時に作者でもある。ユニークですよね。歳時記に載っている季題は膨大ですが、それ自体言葉として美しいものが多い。俳句を始めたばかりで句会に出た時、選句で回って来る一句一句の言葉がキラキラ輝いて感じられたんです。「日本語ってこんなに美しいのか」って感動しました。その感動の延長線上で俳句を続けているのかもしれませんね。他の人の句を読んで、言葉の表面的な美しさだけでなく、客観写生の奥にしみじみとした心が見えると、ああ美しいなといつも感嘆します。自分もこういうしみじみと美しい句を作れるようになりたいなと。

芳賀　他人（ひと）の句が深く味わえるというのは、それだけ自身の句境も深まっているということでもあるんでしょうね。

日置　そうかもしれませんね。句を深く鑑賞することで自分の心が深まる。そうした心持ちで句をつくることで句の奥行きを広げることができると思います。ものの見方も変わります。以前は草花の名前も分からなかったし関心もなかったんです。それが俳句をすることで道ばたの小さな花までいとおしく思える。季題を追いかけて、忘れられつつある宗教行事も知りました。日本の四季から生まれた行事習慣は大切なんだと思います。俳句からいろいろなことを教えられ、俳句に育ててもらったようなものですね。実はいま、改めて虚子を勉強しています。稲畑汀子先生の『虚子百句』という本を読んで、いままで自分が持っていた虚子の句についてのとらえ方を、眼からウロコが落ちるように変えられたんです。こんな深い読み方があったのかと。虚子の世界というのは基本手法は客観写生でありながら、それこそ草木と話をするアニミズムなんですね。なかなかそこまではいきませんけど、遥かであっても虚子を目標としてやっていきたいと思います。虚子たちがたびたび探勝に訪れた武蔵野に住んでいることも励みになります。

芳賀　受賞の新聞言でも、武蔵野の自然に感謝したいとおっしゃっていました。

日置　昭和初期、虚子たちは立川周辺をたびたび訪れていて、昭和8年12月に普済寺を訪れた紀行を中村草田男が書いています。普済寺も周辺も大きく変化していますけど、虚子たちが見た山並、普済寺裏のハケの椿の薮などは、当時を残していると思います。虚子たちが愛し探勝した武蔵野に住んでいる、そういう自覚はいつも持っていたいなと思います。

近詠三句

辛夷咲き初め大空の動き初む

父母の在さばや今日の花浄土

空に色解き放ちたる花水木

えくてびあんの輪

立川と語ろう 立川に生きよう
えくてびあんは
リストのお店にいつもあります

今月は 上砂町・栄町・幸町・高松町・錦町のお店です。

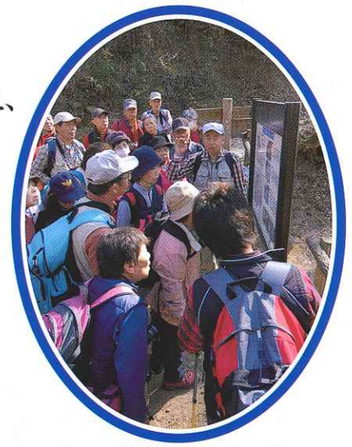
上砂町	fresh shop	スーパーはしもと	上砂町3-2-1 536-2331
栄町		多摩信用金庫 栄町支店	栄町2-59-8 536-9711
		いなげや 立川栄町店	栄町3-7-1 523-7201
		ニュースサービス日経 立川中央	栄町4-8-12 522-4507
		チーズ王国 本社	栄町4-16-1 525-9800
	手打ちそば	佶更	栄町5-12-1 537-0991
		FUKUSHIMAYA 立川店	栄町5-36-1 534-1700
		相模屋酒店	栄町5-61-8 536-2476
	メンズカット	ヤザワ	栄町5-61-31 536-8738
		森田接骨院	栄町6-6-25 535-6240
幸町		立川農産物直売所	幸町1-14-1 536-2439
		いなげや 立川幸店	幸町1-23-6 537-1820
		多摩信用金庫 幸町支店	幸町1-25-15 535-5311
	中華レストラン	SANFUJI	幸町2-3-5 536-3813
		西武信用金庫 幸町支店	幸町2-11-34 537-3101
		大黒屋	幸町2-47-8 536-0851
	お菓子処	花奴万葉庵 すずかけ通り店	幸町3-17-3 536-8785
	江戸前・富山の魚と酒	緑寿司	幸町3-28-24 536-4800
		至誠キートスホーム	幸町4-14-1 538-2323
	とんかつ・割烹	かつ亭	幸町4-59-3 535-4611
幸町	ドイツ製法ハム・ソーセージ	ゼーホフ工房	幸町4-59-4 535-5009
	和洋菓子	たちばな	幸町5-2-16 537-0347
	BSタイヤショップ	佐藤商会	幸町5-10-2 537-0912
	古楽の小屋	ロバハウス	幸町6-22-32 536-7266
錦町	めがね・とけい・補聴器	カワハラ	錦町1-1-25 525-4427
	鳥料理	くし秀	錦町1-2-3 522-7692
	御菓子司	やな瀬	錦町1-3-12 522-3969
		宮地楽器 MUSIC JOY 立川南	錦町1-3-21 526-1779
	中国料理	五十番	錦町1-4-5 522-7472
	手づくり味噌の材料専門店	北島こうじ店	錦町1-4-28 524-3190
	new gyoza1059	餃子天国	錦町1-5-6-1F 526-2283
	イタリアンダイニング	asa	錦町1-5-6-1F 529-5668
	ワインバー	バルアラディ	錦町1-5-6-1F 523-3917
	テーブルウェアー	H.works	錦町1-5-6-2F 521-2721
	手うち蕎麦	なかさと	錦町1-5-22-1F 524-5758
	中国気功整体院	立川院	錦町1-5-22-1F 529-1088
	焼きたてパンの店	ヴァイツェンブロート	錦町1-6-19 527-2176
		日本クッキングスクール	錦町1-7-31 522-3440
	ステーキレストラン	リブレ	錦町1-8-3 527-1630
	和菓子処	ゆうき	錦町1-8-5 525-0780

VIEW

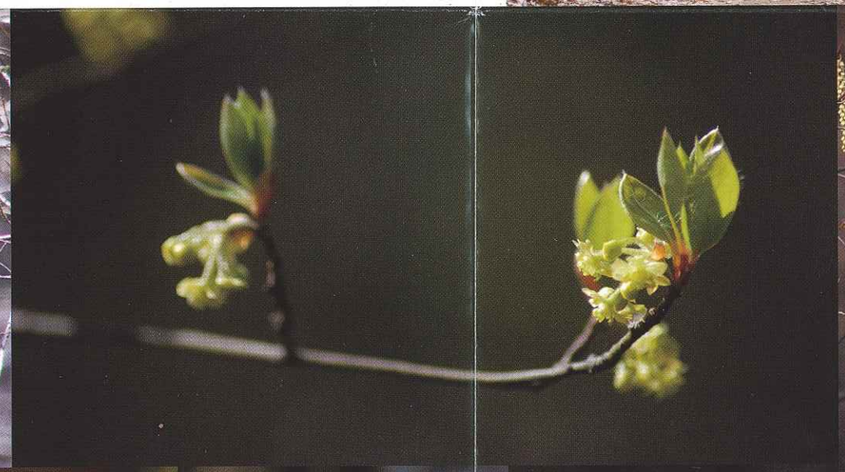
自然の中で…

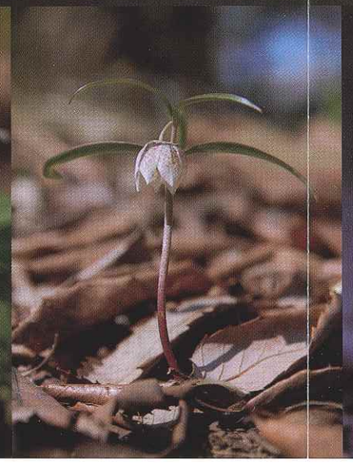
20周年を迎えた「立川自然観察友の会」

「立川自然観察友の会」（鈴木功会長）が創立20周年を迎えた。
公民館主催の市民教室をきっかけに集まった自然好きの会――とはいえ、
ほぼ月１回のペースで身近な川や丘陵から本格的高山まで、
積み重ねた蓄積は並ではない。
専門知識を各方面で生かす会員も少なくない。
会員による写真展「自然の中で…」も16回を数える。
時に自然破壊に心を痛めながら、
会員たちは自然の中を歩き観察し記録し、写真に収める。



写真：五来孝平





３月の月例観察会に同行させてもらった。行き先は八王子市の長沼公園と片倉城址公園。この季節に咲くカタクリをはじめとした草花と芽吹き時期の雑木林を見るのが主目的だ。

朝７時半、モノレール立川南駅に集合し高幡不動で乗り換え京王線長沼駅下車。田んぼが住宅地になった駅付近から丘陵に少し入ると、そこは昔ながらの多摩の雑木林。人が入り込まないように保護された斜面にちらほらとカタクリが咲き始めていた。複雑に入り組んだ尾根や谷を行き来しながら変化に富んだ植物や鳥の声を楽しむ。

今が満開のコブシ、咲き始めたヤマザクラ、薄紅色の花が可憐なウグイスカグラ。藪ではしきりにウグイスが啼きシジュウカラもにぎやかだ。谷筋にはタマノカンアオイが地味に葉を広げ、見上げるとクヌギの枝先が芽吹きで黄色くぼやけている。

長沼公園を後にしてしばらく住宅地の道路を歩き、目指したのは片倉城址公園。こちらも広くはないが多くの野草が大事にされている。公園入口近くの樹でカワセミがじっと池の中をうかがっていた。よく整備された路を登っていくと、カタクリのほかカイコバイモ（甲斐小貝母）、シュンラン、アズマイチゲなど、そこここに咲いている。他の草や頭上の樹木が繁る前のひととき、春の野を大急ぎで彩る花たち。こちらもいとおしい気持になった。

立川と多摩地域が
もっと楽しいホームページ
多摩てばこネット
http://www.tamatebako-net.ne.jp/
多摩てばこネット編集工房
〒190-0012 立川市曙町3-4-3 武藤ビル2F
tel 042-548-9606 fax 042-548-9609
e-mail message@tamatebako-net.ne.jp

常楽我浄
真如苑提供番組<じょうらくがじょう>
スカイパーフェクTV 216ch、マイ・テレビ 84ch
土 曜 午前9時～9時15分
午後7時15分～7時30分
再放送／火曜 午前9時～9時15分
午後7時45分～8時
放送時間は予告なく変更する場合がございます。
立川に育てられて七十一年
真如苑
柴崎町1-2-13 Tel.527-0111(代)

ValueUp
「お客さまの声」は、
たましんの力。
たましんは、お客さまとともに価値を
創造し、夢を実現してまいります。
たましんホームページ http://www.tamashin.jp
たましんにご相談ください。78店舗の窓口や約500名のお客さま
担当が、お客さまの声にお応えいたします。
たましん 多摩信用金庫

大廣社は今、「知的集約」型企業を実践しています。
伝達を使命とする情報産業の一翼を担う大廣社は、
新しい時代の新しい表現を責任持って拓くために、
クリエイティブから最終製品にいたるまでの一貫体制を
構築しています。
先進のシステムと
最新技術との融合
株式会社
大廣社
〒190-0022 東京都立川市錦町5-17-13
tel.042-527-1911
fax.042-527-1949
E-mail info@daikousya.jp
http://www.daikousya.jp/index.html

えくてびあん流

モンゴルと立川の遠くて近い関係

モンゴルといえば、チンギス・ハーンが大帝国を作った草原の国、もっと身近なところで大相撲の横綱朝青龍や大関白鵬たちの活躍……というところがまず思い浮かぶ。地球の裏側ではないけれど遠い国だが、実は立川と意外に近しい。

2月27日、来日中のモンゴル大統領夫人オノンギーン・ツォルモンさんが柴崎町の「東京賢治の学校」を訪問。モンゴルの移動式住居ゲルの中で子どもたちと交歓した。2年前モンゴルから職人を招き保護者も手伝って作ったゲルを教室として使用している。モンゴル文化や民族楽器・馬頭琴を授業に取り入れている縁で、多忙なスケジュールを割いて訪れた。子どもたちが馬頭琴や日本の八木節などを披露し、夫人から馬頭琴10台が贈られた。

「モンゴルも日本も独自の言葉や文化を守ってきた国。人々が言葉を超えて理解し合うのに一番大切なのは互いの文化を理解することです」と語った大統領夫人。「ウランバートルではどんなところに住んでいるんですか？」「どんなスポーツをしますか？」といった子どもたちからの質問にていねいに答え、いわゆる公式訪問とは違うアットホームなひとときを過ごした。

2月27日、東京賢治の学校で

3月25日には、馬頭琴の第一人者で日本を拠点に国際的に演奏活動を行っているアヨーシ・バトエルデネさんの演奏会が錦町の至誠ホームスオミで行われ、お年寄りや地域の人たちが軟らかく深みのある馬頭琴の響きを楽しんだ。

この人この店 ㊻

炭火煎珈琲

はるもにあ

吉峰まき子さん

立川駅北口のファーレを抜けて南北道路を北上するとパッと視界が開けるところ。そこに〈はるもにあ〉はあります。重々しいけれど控えめな入り口はオーナーの吉峰さんの人柄を表しているよう。証券会社をやめてマンション1階に喫茶店を開いて8年。毎月第2土曜日の歌声喫茶、ヴァイオリンやアコーディオンの演奏会も定着しました。年齢もさまざま、お仕事もさまざまな人たちが集って出会いの場に、語らいの場に、発表の場になっています。もちろん一人静かにコーヒーをいただくもよし、カウンター越しに吉峰さんとお話しするのもまた楽しい。炭火焙煎のコーヒーは香り高く、吉峰さん手作りのケーキやクッキーがつけばさらにおいしい。音楽がお好きだったんですか？—「音楽は好きだったけど演奏までは。でも、みんなで楽しんでいるうちにもっと好きになりましたよね」。柔らかい吉峰さんの応対に、また行きたくなっちゃうのは私だけ？

〒190-0011 立川市高松町3-8-3-101
TEL 042-521-2959
営業時間 月曜～土曜 11:00～20:00
日曜 13:00～18:00
イベントやお休みはHPで確認してください。
http://homepage2.nifty.com/harmonie2000/

写真撮影：五来孝平

たちかわ散歩道 ⑩

新緑の武蔵野林

上水辺から殿ヶ谷緑道を歩く

挿絵と文■森 信保

今回は、砂川上水辺の新緑と、いまだに残る周辺の自然を楽しみながら上流の西砂方面へと歩く。武蔵砂川駅前①の道を東に300mほど行くと交差点に着く。この近くは旧残堀川の水路だったため、洪水のたびに流されてきた木の枝や落葉が一面に広がるところから「オッチラシ」とも呼ばれた。信号を右折し西武線のガードを抜けて玉川上水の「見影橋」②へ。

上水の南側、新緑の桜並木の道を上流に行くとほどなく「新家橋」(三の橋)。「しんや」と呼ばれる農家の裏橋だったことからその名がついたとも言われ、北の畑地(堀向)へ行くための重要な橋だった。並木が終わると「残堀川」の橋に到着。残堀川は狭山の池を源流とし、明治40年頃に上砂七丁目あたりから水路を変更し、下流は富士見町の旧根川につながる。大雨で幾度となく周辺に冠水や汚水公害などがあり、そのたびに水路の改修や下水道整備が進められてきた。

残堀川の「上宿橋」から「稲荷橋」(二の橋)へ。橋を北に渡り上水沿いに進むと「天王橋」(一の橋)③交差点に着く。ここは昔から交通の要衝。南に大神街道、北は残堀街道、西に五日市街道(伊奈道)に分かれる分岐点だ。幕末、ここが西端の村境「砂川一番」で、東端の十番(若葉町)までの番号の起点ともなった。

橋の南西角には砂川一番で祀る「八雲神社」、天王様と呼ばれる社がある。天王様を奥へと進み一番橋を過ぎると、ケヤキやコナラなど、木々の新緑が空いっぱいに広がり、武蔵野林の自然の風情を感じさせてくれる。左の暗渠となっている「砂川分水」の広い部分が終わり、道の左側には分水掘割の水路が見える。ほどなく左手分水説明板を見ながら、新緑のトンネルを抜けると、瑞穂町から昭島方面に抜ける大通りの「松中橋」④。

橋を渡り左折し上水の北側から「砂川・柴崎分水取入口」を見ながら、西砂・昭島地域へ。上水の一部が暗渠になり桜の木々がある広々とした場所を通り過ぎると、暗渠は終わり、ほどなく「美堀橋」(昭島市)に到着。

ここで上水とは別れ、大通りを北に向かい西武線の踏切から西砂地区へ。「宮沢中央通り」の「西砂小東」信号を左折し「市立西砂小学校」の北側道を行くと、ほどなく「殿ヶ谷分水」から「殿ヶ谷緑道」⑤に変更された道に出会う。分水は開拓時代、旧殿ヶ谷・旧宮沢・旧中里新田の大切な飲み水や生活用水として利用され、発展に役割をはたした。緑道となった旧用水路を北に進むと「旧五日市街道」に出会う。「阿豆佐味天神社」前の旧街道沿いには、いまだ屋敷林の大ケヤキが残りかつての新田の面影も感じられる。変容いちじるしい西砂を見ながら、街道横の用水跡の歩道を東へ。「松中団地南」⑥交差点を右折すると、西武立川駅はもう近い。

行程 ①武蔵砂川駅(西武線)—②見影橋—③天王橋—④松中橋—⑤殿ヶ谷緑道—⑥松中団地南

表紙の人

友安 昭さん(上砂町)

蜜蝋鋳金—ミツバチの巣から精製した天然の蝋で形をつくり鋳型に金属を流し込む。古代オリエントで6000年も前に生まれた技法。金属の鋳肌が美しく細部まで再現できるが、お湯で温めた蜜蝋が固まるまでの間に造形しなければならないなど難しさもある。芸大で鋳金を学び蜜蝋に魅せられてこの道一筋。かつての米軍住宅を工房に、妻の眞智恵さんと二人三脚で日々制作に打ち込む。プラチナや金製の繊細な花からステンレスの大胆な造形まで、蜜蝋から広がるイメージは無限。

元米軍住宅のアトリエで
写真：細江英公

かたこと

まずお詫びから。4月号「たちかわ散歩道」本文中「南富士見小学校」とあるのは「新生小学校」の誤りでした▼昭和天皇のお誕生日だった「みどりの日」が5月4日に引っ越して、4月29日は「昭和の日」。まとまった休みを利用して外出するのにぴったりの季節です▼VIEWは、設立20周年を迎えた「立川自然観察友の会」のみなさんと、カタクリなどの咲く雑木林を歩いたレポート▼ひとくちに20年といっても、ここまでには会長の鈴木功さんをはじめたくさんの無償の努力があったにちがいありません。すばらしいことです▼対談でご登場いただいた日置正樹さんが朝日俳壇賞に輝いた俳句も、いってみれば日本人が無償で育ててきた文芸▼俳句とは発見だとおっしゃいます。和歌や近世以来の俳人たちが日本語に心を託した歌や句を味わい、自らも自然に深く浸って句が生まれる▼俳句も自然観察も、そしていよいよ新緑の「続・立川から見える山」を案内していただいている守屋龍男さんたちの登山も、虚心に自然に向き合い、そこに学ぶことが要諦なのでしょう▼毎号駄文をさらしている編集子は恥ずかしいばかりですが、風薫る五月、季節の中に美しい言葉を探しにいってみたくなります。(芳)

スタッフ
編集 大久保清志／清水恵美子／中薫子
デザイン 池田隆男(WATER DESIGN ASSOCIATES)
AMNET design factory
写真 五来孝平／中村 伸

えくてびあん (C) 5月号
第25巻 通巻270号
平成19年5月1日発行
発 行 えくてびあん編集工房
〒190-0012
東京都立川市曙町2-17-5 杉田ビル3F
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065
編集人 芳賀敏博
発行人 加賀悦也
印 刷 (株)大廣社

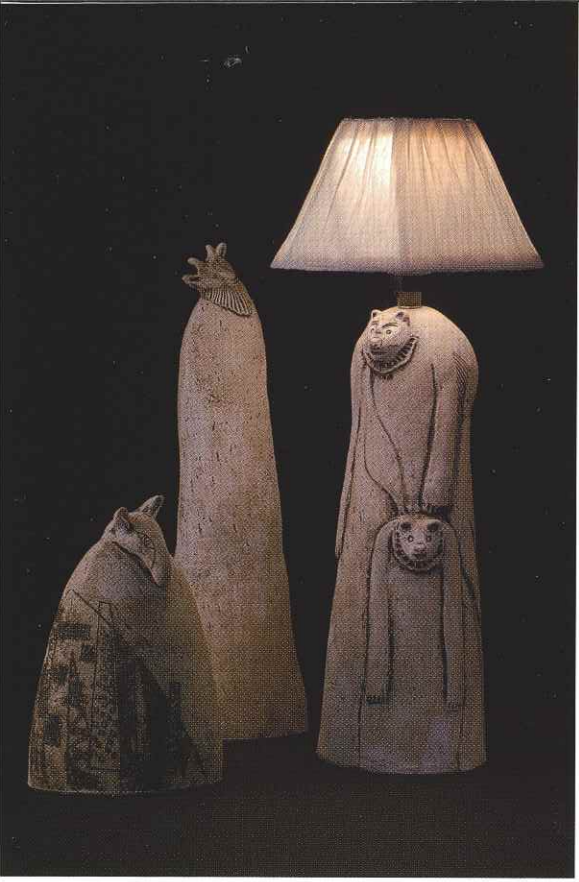
無断転載を禁じます。

やきものごころ

立川の女性陶芸家 4

坂本喜代美さん（栄町）②

化石と並んで好きなのが空想の動物。童話やいろいろな伝説、民話に出てくるような熊とかヨタカ、羊、マンドリル、ニホンカモシカ、鷲、バク……。デザイン的に明確なものよりストーリーがあってそこから形が見えてくるもの。作りながら物語を読み解いている、そんな感じですね。照明や花器など、〈用〉による使う方との交流の接点は大事にしたい。でもそれを取り払っても楽しいかなと。自分でも方向がどうなっていくか分からないですが、少しは見えてきたのかな？



左から
［異国の住人・（獏）］［異国の住人・賢者（ニホンカモシカ）］
［イーハトーブ・（なめとこ山の熊）］

［異国の住人・（獏）］

写真：五来孝平